

平成20年度  
山梨県地域活性化促進事業費補助金  
取り組み事例集

山梨県



# 平成20年度 山梨県地域活性化促進事業費補助金 取組事例一覧表

## 【チャレンジ事業支援】

番号	団体名	事業名	頁
1	ハケ岳ミュージアム協議会	ハケ岳アートフェスティバル「絵のない 展覧会」	2
2	市民団体ハート51	専門家チームによる定住外国人に対す る日本語、生活支援	4
3	命の大国ネットワーク (食育ネットワーク)	箸育からの食育 ～つくろうマイ箸、い ただこう地元の恵み～	6
4	山梨YMCA	発達障害児支援プログラム	8
5	特定非営利活動法人 ゼロファクトリー	陶芸用薪窯による間伐材の恒常的活用	10

## 【協働促進事業支援】

番号	団体名	事業名	頁
6	特定非営利活動法人 スペースふう	小瀬エコスタジアムプロジェクト6月 エコイベント	12
7	特定非営利活動法人 みのぶ観光センター	森林文化の森「本栖の森」を活用した人 と森林との交流の場づくり	14



## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

①

団体名	ハケ岳ミュージアム協議会
代表者名	松村 雅子
所在地	えほん村 (北杜市小淵沢町上笹尾 3332-426)

1. 事業名	アートフェスティバル「絵のない展覧会」
2. 実施期間	2008年11月1日～11月8日（ハケ岳の日）
3. 交付決定額	220,000円（事業費 440,000円）
4. 経緯	ハケ岳に多くのミュージアムが存在することを多くの方々に知っていただきたいと願い、協議会の愛称を「ハケ岳ミュージアム・リング」に決め、その後、「互いに親交を深めること」「地域との交流」「今後のミュージアムのあり方」を机上で構築するだけではなく統一のテーマを持って「アート・フェスティバル」を実行することを立案・企画しました
5. 事業内容	<p>【親子参加型事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「星をみる会」会場：清里フォトアートミュージアム（K・mopa）</li> <li>・「ステンシルで鳥を描いてみよう」会場：藪内正幸美術館</li> <li>・「絵のない展覧会ならみんなで絵を作っちゃおう」 会場：安達原玄仏画美術館</li> <li>・「はたおり体験」会場：ハケ岳美術館</li> <li>・「額で景色を切り取っちゃおう」 会場：オオムラサキセンター</li> </ul> <p>【視覚障害者参加型事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「音とことば～オルガンにのせた むかしはなし」 会場：平山郁夫シルクロード美術館</li> <li>・「オルゴールで詩う」 会場：ハケ岳オルゴール館 ホールオブホールズ</li> </ul> <p>【地域文化の継承事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハケ岳むかしはなし 小淵の里のおはなし」会場：えほん村</li> <li>・「ハケ岳むかしはなし 長坂・きつねのおまいり」 会場：北杜市立長坂郷土資料館</li> <li>・「ハケ岳むかしはなし ハケ岳と富士山のけんか話・岩長姫」 会場：ハケ岳美術館</li> </ul> <p>【地域交流型事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「星をみる会 一暗黒星雲一」</li> </ul>



	会場：清里フォトアートミュージアム（K・mopa）
6. 事業成果	<p>1) 事業の目的であったミュージアム同士の連携が取れた。</p> <p>2) ミュージアムで親子参加型ワークショップを開催した館は、いずれも地域の参加者が多く、地域の交流が出来た。</p> <p>3) 他地域のミュージアム推進委員会との交流が出来た。 例：安曇野アートライン推進委員会 フェスティバル最終日を11月8日「ハケ岳の日」に合わせたことで他のネットワークとの交流が出来た。 例：ハケ岳歩こう会、ウォーク愛好会</p> <p>4) 視覚障害者参加型事業を取り入れたことで今後のミュージアム事業として本格実施する用意が出来た。</p> <p>5) アートフェスティバルを通して、ハケ岳ミュージアム協議会に加入希望館が増えた。</p>
7. 課題	視覚障害者参加型事業については、モデル事業として実施したが、実際には視覚障害者の参加者がいなかった。今後は、ボランティアボードやライトハウスとの協力体制を検討していきたい。
8. 今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年に山梨県で開催予定の国民文化祭を目標に置きたい。</li> <li>・ミュージアムが地域と交流し、その役割を果たすこと。</li> <li>・勉強会などを開き、ミュージアム自体のレベル・アップを図る。</li> <li>・各地にある美術館ネットワーク、推進委員会との交流を深める。</li> <li>・ハケ岳においてミュージアムが発信できる様々な提案を討議する機会を持つ（一般参加型も一考）。</li> </ul>
9. 補助制度に対しての意見（感想）	どのような事業も継続することに意味があるので、補助金が継続できないのは残念であると思います。

## ★ 団 体 紹 介 ★

私達は、ハケ岳に点在するミュージアム29館からなる協議会です（2008年11月現在）。日本でもミュージアムが多くある地域とされるハケ岳高原で美しい景観を背景に、ミュージアムでゆとりの時間や、アートがおりなす「最上の癒やし」の時間を味わっていただけたらと協議会では様々な課題に取り組み始めました。

はじめに、ミュージアムをネット（リンク）すること…そこで地域の方々に親しみを持っていただくために愛称を【ハケ岳ミュージアム・リング】と名付けました。

それは、ハケ岳を頭にして互いにリンクし、ドーナツ状（リング）のネットワークをつくることでした。

私達は、「地域との交流」や「次世代のミュージアムのあり方」「観光とミュージアム」、また、私達にとって必須である「景観問題」までも幅広く語り合い、育み、ミュージアムでの地域づくりの課題とは何かを考えています。

2008年度会長：松村雅子記

ハケ岳ミュージアム協議会のホームページ <http://yatsugatake-museum.jp/>

## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

②

団体名	市民団体 ハート 51
代表者名	加藤順彦
所在地	甲府市丸の内2-35-1 県ボランティア協会内

1. 事業名	専門家チームによる定住外国人に対する日本語、生活支援
2. 実施期間	平成20年7月 ～ 平成21年3月
3. 交付決定額	915,000円（事業費 1,830,000円）
4. 経緯	<p>2007年に発足して以来、言葉や文化の違いから生活に問題を抱えている定住外国人の生活支援をすべく、日本語教室開催や、生活相談会等を実施してきた。しかし、我々の活動は、スタッフ個々のボランティアに支えられており、年々増加する定住外国人の対応に人的又は金銭的にも活動が追いつけなくなった。このため、増加し続ける定住外国人への継続的な支援には、県からのバックアップがあったほうが心強く、活動範囲も広がるため、チャレンジ事業支援の申請を行うこととした。</p>
5. 事業内容	<p>山梨県における定住外国人の集住都市で、各市町村の市役所及び国際交流協会の協力を得てセミナーを開催すると共に、多文化共生を推進していく上で最大の課題である定住外国人の情報不足、日本語能力向上、生活支援の相談会を行った。</p> <p>日本語学習では、従来のやり方に加えて、日本語とポルトガル語を交えた新たな学習用の教材を使って、一年半位の期間中に、読み、書き、話す、の小学校3年生程度の学力が身に付くよう支援を行った。</p> <p>生活情報の面では、ポルトガル語、スペイン語の彼らの母国語で直接、必要な情報を伝え、又彼らが抱える問題解決の支援を行った。</p> <p>また、必要に応じて薬剤師、弁護士、多文化共生アドバイザー、日本語指導助手などを帯同する。</p>
6. 事業成果	<p>定住外国人が抱える、住民税、年金、国民保険、医療、仕事、離婚、ビザ、居住といった様々な相談に応じることができた。</p> <p>県営小瀬団地のセミナーにおいては、定住外国人だけでなく、自治会役員の参加もあり、双方が抱える問題から定住外国人の集住地域における自治会活動の課題が浮き彫りになった。</p> <p>また、国際交流センターのセミナーは、国際交流協会、外国人の人権擁護団体オアシスとの共催で“定住外国人の住民税及び年金に関する相談会”を開催した。このセミナーでは、甲府市、甲斐市、南アルプス市、社会保険甲府事務所、人材派遣会社の参加を得て、定住外国人の相談に応じることができた。</p>

	<b>これまでに行ったセミナー</b>			
	開催日	会場	参加者	
	8/24	富士吉田市（市民会館）	6人	
	8/31	中央市（田富総合会館）	10人	
	9/28	韮崎市（市民会館）	8人	
	10/5	甲府市（小瀬団地）	22人	自治会役員も参加
		中央市（田富総合会館）	6人	
	10/12	甲府市（国際交流センター）	30人	行政、企業も参加
	10/19	甲府市（小瀬団地）	16人	
		中央市（田富総合会館）	5人	
10/26	中央市（田富総合会館）	4人		
	<b>【日本語教室】</b> 小瀬団地の集会所における日本語教室は、毎週日曜日の10時から開催し、毎回7～8人が参加した。山梨県ボランティア・NPOセンターと中央市の田富総合会館の教室では35名が参加した。			
	<b>【生活支援】</b> セミナーを開催した結果、その後の相談数が増え、現在の会員数は80名を超えている。相談内容は、住民税の相談の他、仕事に関する相談が多くなっている。当初想定した弁護士、薬剤師を必要とする具体的な事例は予想より少なかったが、セミナーを通して様々な人に出会えたことで、ポルトガル語、スペイン語の通訳、翻訳ができるネットワークが形成されつつある。			
<b>7. 課題</b>	定住外国人が抱える問題はその時の市場動向に左右され対象が変わる。また、個々の問題解決のために多くの時間を要する。日本語を教えられる人材、時間的な余裕のある人は少ないため、多文化共生事業を通して、全ての分野に幅広い知識、情報、人脈を持つもっと多くのソーシャルワーカーを育成する必要がある。			
<b>8. 今後の展開</b>	定住外国人が抱える現実の問題点に適切に対処できるよう、労働、雇用関係の情報収集を強化する必要がある。日本語学習では彼らが居住しているところ又は働いている場所で開くのがベターなので今後、派遣会社等にその可能性について打診していきたい。			
<b>9. 補助制度に対する意見（感想）</b>	我々の活動は、会員の個人的な活動によって支えられているので、補助対象経費の枠を事務費、人件費などにも適用して欲しい。			

## ★ 団 体 紹 介 ★

増加する定住外国人と日本人との多文化共生の推進に向けて、多様化、複雑化、高度化している問題に迅速かつ的確に対応するため、彼らの役に立つ情報提供及び日本語・生活支援を行う専門性の高い人材によるネットワークの形成を目指している。年会費は千円、山梨県県ボランティア・NPOセンター内で行う相談は無料で、日本語、ポルトガル語、スペイン語での対応が可能である。




## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

③

団体名	命の大国ネットワーク
代表者名	武藤 傳太郎
所在地	富士吉田市下吉田1328

1. 事業名	箸育からの食育 ～つくろうマイ箸、いただく地元の恵み～
2. 実施期間	8月10日、11月9日
3. 交付決定額	167,000円（事業費335,000円）
4. 経緯	<p>日本の食文化の根幹である箸文化の継承が危ぶまれています。子どもたちが箸を使う機会が少ないこと、また、正しい使い方を家庭で学ぶ機会がないなどの問題もあります。富士吉田市内では、小中学校で箸の持参を促していますが、小学生で8割の持参率、中学生になるとほとんど持参していない状況です。</p> <p>そこで、“箸”に重点を置き、箸に関係する学びやマイ箸づくり、マイ箸を使って地元の恵をいただく体験を通じて、箸をはじめとし、食に対する理解や興味を深めることを目的に実施しました。</p>
5. 事業内容	<p>1) 箸育から始める食育について講演（箸の種類、漆について、食事の作法も含）</p> <p>2) マイ箸づくり</p> <p>3) マイ箸で地元の恵（ミルクークイーン、白菜、芋、大根、黒豆など）をいただく（収穫祭を実施）</p>
6. 事業成果	<p>箸の文化やマナーについての講義は、参加者全員が熱心に耳を傾けていました。「今までは、箸を単なる道具としてとらえていたが、箸や箸遣いが日本の食文化そのものと感じた。」などのご意見もありました。また、「箸づくりや自分の作った箸で地元の恵みを味わうことで、箸への愛着が湧き、子どもが箸を使う機会が増えた。」という感想もありました。</p> <p>市内の小中学校からも、来年は、ぜひうちの小学校で子どもたちを対象に開催したいなどの声も聞かれました。このような反応から、今回の“箸を通じての食育”は、大きな成果が表れたと考えます。</p> <p>富士吉田市内小中学校、特に中学校でのマイ箸の持参率が低く、箸を使わない状況にあるという地域の問題がありました。これにつきましては、今年度12月より中学校のうち1校で箸が給食に導入されることとなりました。（その様子を受け、1月からは、全中学校で導入される予定だそうです。）今までと違い、学校給食で箸を使うことで、学校はもちろん家庭でも“食”に関心を持つことが期待されます。</p>



	 <p>マイ箸づくりの様子</p>
<p>7. 課題</p>	<p>学校側の見解により、児童・生徒に積極的に呼びかけができない等、小中学校との連携の難しさを感じました。</p>
<p>8. 今後の展開</p>	<p>まず、今回の事業の様子や成果を広く地域の方々に伝え学校や家庭それぞれで取り組める“食育”に目を向けるきっかけづくりにしていきたいと考えます。今回の取り組みにより、小学校での箸育の開催も期待されます。</p> <p>長期的な展望といたしまして、箸の素材についても地産を目指したいと考えます。</p>
<p>9. 補助制度に対する意見（感想）</p>	<p>私どものような資金のない団体の活動を支援していただける、貴重な制度と考えます。経済的に厳しい現状では、ことさらです。</p> <p>また、補助を受けていない団体にとっても、この制度の成功例を参考にすることで、効率的に活動を展開することができます。そういう意味では、取り組み事例の紹介こそ、この制度の大きな役割と思います。</p>

<p>★ 団 体 紹 介 ★</p>	
<p>富士北麓地域のよさを見つめ、生産・流通・消費・家庭・保育園・学校・行政などそれぞれの立場で、また、連携しながら食育に前向きに取り組み、地域住民の<u>身体の健康</u>（“食”の中でも栄養や食事バランスの影響）、と<u>心の健康</u>（“食”の中でも食事を共に作る・食べることによる心の充実や食文化の継承などの影響）の増進を目的とし、食育活動の展開を行っています。</p> <p>平成17年度に“子どもの食を考える集い”をきっかけに座談会が発足。翌18年4月から命の大国ネットワークと命名し活動を行っています。</p> <p>【主な活動】</p> <p><u>（1）『食育フリーマーケット 交流広場』</u></p> <p>昨年の売り買いだけのフリーマーケットから、食育をさらに意識して、参加者の交流の場としても機能し、情報交換をしたり、食育について考えるきっかけとしてもらう。</p> <p><u>（2）親子野菜づくり教室</u></p> <p>親子で野菜の苗、種を植えること、育てること、収穫することを実感し、野菜に親しみ食物を大切に作る心を養う場とする。</p> <p><u>（3）収穫祭</u></p>	

## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

④

団体名	山梨YMCA
代表者名	理事長 鈴木 健司
所在地	甲府市中央5-4-11

1. 事業名	発達障害児支援プログラム
2. 実施期間	平成20年6月～平成21年2月
3. 交付決定額	1,000,000円（事業費2,050,000円）
4. 経緯	<p>山梨YMCAは、社会的な問題となっている発達障害児（主にLD、ADHD児など）をサポートするため、過去27年に渡る障害児と健常児の統合キャンプ、障害児支援のための募金・意識啓発活動「やまなしチャリティーラン」などを実施してきた。</p> <p>こうした経験を生かすとともに、先進的な取り組みを行っている各地のYMCAの事例を参考に、発達障害児へのより効果的なサポートや、保護者・周囲の人々の理解を高めるため、ソーシャルスキルワーク、学習支援、野外体験活動などのプログラムを実施することとした。</p>
5. 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害理解講演会（6月・10月・2月） <ul style="list-style-type: none"> <li>①発達障害に関する基本的理解の促進を図る</li> <li>②発達障害児を取り巻く環境にとって必要なものとは何か</li> <li>③活動の成果と今後の展望について</li> </ul> </li> <li>・保護者、教育関係者学習会（7月・9月・1月） <ul style="list-style-type: none"> <li>①発達障害児への最も身近な者からの理解と教育のありがた</li> <li>②発達障害児の成長と発達について</li> <li>③活動の成果と今後の成長への取り組みについて</li> </ul> </li> <li>・日帰り野外活動（7月・8月・10月） <ul style="list-style-type: none"> <li>①野外活動(キャンプ)への導入とボランティアリーダーとの顔合わせ</li> <li>②野外活動(キャンプ)の楽しさと自己表現の表し方</li> <li>③自分から入ってゆく野外活動(キャンプ)と、仲間との触れ合い</li> </ul> </li> <li>・宿泊野外活動（8月・1月） <ul style="list-style-type: none"> <li>①親元を離れての宿泊体験(キャンプ・ナイトハイク・野外料理等)と、ボランティアリーダーとの生活</li> <li>②冬の野外活動(キャンプ・リ・スキー・雪遊び)の楽しさと、友達関係の発見</li> </ul> </li> <li>・わくわく教室（11月・12月） <ul style="list-style-type: none"> <li>①ソーシャルスキルワークの導入</li> <li>②学習支援活動の導入</li> </ul> </li> </ul>



<p><b>6. 事業成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの態度、様子にのびのびとしたものが見られるようになった。学校などで何かというといじめられがちなため、いつもまわりを気にしながらの生活を送りがちな子どもに与える安心感は大きい。</li> <li>・ボランティアの大学生や大人との関係も親密さを増してきた。基本的には何をしても良いという安心感もある。</li> <li>・徐々にではあるが、仲の良い子ども同士での交流が活発に行われるようになった。小さいケンカが見られるようになったのもその表れかと思う。</li> <li>・保護者に余裕が見られるようになった。保護者同士での話し合い、交流も徐々に活性化してきている。</li> <li>・学校（特に小学校）の教師が参加するプログラムが増えてきた。専門家、学校教師、ボランティア、保護者のトータルな関係も子どもたちに安心感と良い影響を与えている。</li> </ul>
<p><b>7. 課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、仲良くなった子もいるが、友達を作りたいがらない子もいて、グループ化して行くにはまだ時間と参加回数が必要である。</li> <li>・保護者、特に母親は、保護者同士の交流を望む傾向にあるが、障害の程度、地域性などの違いもあり、まだ親密な関係にまで至っていない。情報交換、悩みの相談などの観点からも交流を進める必要があると思われる。また、父親をこの中に引き入れたい。</li> <li>・教師（特に小学校）は、発達障害に関する理解度が高くなっているが、現実問題としてどのように自分が関わるかには理解度の差が大きい。引き続き講演会、学習会を行ってゆく必要がある。</li> <li>・子どものいない一般の人々の発達障害に関する知識・理解は低い。様々な機会を捉えて理解促進に努める必要がある。</li> </ul>
<p><b>8. 今後の展開</b></p>	<p>今回の一連のプログラムを、さらに発展させて、子ども・親・教師・ボランティア・一般の人々を大きく巻き込む運動に広げてゆく必要がある。このために、個人、様々な支援団体、地方行政、教育委員会に幅広く、また根気強く働きかけてゆくことが強く望まれる。</p>
<p><b>9. 補助制度に対する意見（感想）</b></p>	<p>過去の蓄積したものをプログラム化して行くのには非常にありがたいものであった。できれば、何年かに渡り、力が付くまで継続してサポートしていただける補助制度があれば大変ありがたい。</p>

## ★ 団 体 紹 介 ★

山梨では、昭和21（1946）年創立の民間の社会教育・青少年育成団体である。YMCAはYoung Men's Christian Associationの頭文字から成り、全国、全世界に同様の組織のネットワークを持つ。幼児から高齢者まで、教育、福祉、国際、文化等幅広い分野での活動を繰り広げている。具体的には、保育・英語学校・キャンプ・障害者支援・ボランティア育成・国際協力・高齢者福祉・専門学校、等々。

## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑤

団体名	特定非営利活動法人 ゼロファクトリー
代表者名	山口晋一
所在地	南都留郡道志村 10777-1

1. 事業名	陶芸用薪窯による間伐材の恒常的活用
2. 実施期間	平成20年6月～平成21年3月
3. 交付決定額	1,000,000円（事業費2,100,000円）
4. 経緯	<p>山梨県道志村は村内の93%が山林という自然環境の中、ほとんどの山林は資金的な理由で未整備の状態です。そうした状態を少しでも活性化するために、山に放置されている間伐材を恒常的に活用できる活動として、木工教室や家具づくり、建材などと、さまざまな利用法を検討しました。しかし、いずれも加工品として使用するには、手間と時間がかかると同時に、それほど多く消費できないことがわかりました。</p> <p>そこで、薪を大量に消費することができる陶芸の薪窯を作り、間伐材を恒常的に活用することを考えました。薪窯に使用する間伐材は、任意の長さに切り、薪にするという極めて簡単な加工で燃料になり、一回の使用量は約4～6トンと大量に消費することができるため山林の整備の一助になると考え、この活動を推進することにしました。</p> <p>また、地域住民に陶芸や薪窯の焼成方法を指導することで、陶芸という芸術活動を通じ、村民が村外者と交流を図るということも可能になり、都会で陶芸活動を行う人にとっては、陶芸と自然のつながりを実感することができ、今まで自然保護や山を守るという活動に興味のなかった人にも、そのことについて考えるきっかけを与えることが出来ると考えております。</p>
5. 事業内容	<p>まず、専門家の指導のもと、薪窯の築窯（窯を作ること）を地域住民と行います。薪窯を焼成する燃料および、併設する陶芸教室などの施設も道志材を使用します。こうすることで、陶芸という芸術活動を中心に自然資源（間伐材）の有効利用が実現でき、山が整備され林業関係者への経済的循環も行え、地域住民に対しては、窯焚きや陶芸技術を指導することで、将来的に雇用も考えられます。</p> <p>また、神奈川、東京方面の陶芸教室や教育機関に対し、貸し窯の広報宣伝活動を行います。</p>



薪窯の製作風景



<p><b>6. 事業成果</b></p>	<p>原油価格高騰により、原材料の確保が困難となったため、当初の計画に遅れが生じました。現在築窯の作業中であり、間伐材の活用には至ってありませんが、道志村の林業関係者には、活動を理解してもらい、間伐材確保について協力してもらえらることになりました。また、道志村だけではなく、近隣の神奈川県林業関係者の方からも協力してもらえらることになっています。</p> <p>この活動で交流した神奈川の陶芸教室に、間伐材の有効利用の情報を提供したところ、道志村の間伐材を利用してくれることになりました。こうした活動を通じて、単に「焼き物を焼く」という行為だけではなく、間伐材の利用という形で自然保護につながるという認識を持ってもらうことが出来ると思います。現在、窯は完成してありませんが、2月半ばには窯が完成する予定です。すでに、東京の陶芸教室が使用を希望しているので、5月には、陶芸教室を通じた間伐材の利用を始めることができます。</p>
<p><b>7. 課題</b></p>	<p>現実的な問題として、原油高騰のさなかに材料を購入ということになってしまい、一昨年に比べ、3倍近い価格になり、陶芸の材料業者と材料費や人件費で折り合いがつかず、予算内で材料などを購入することに時間がかかり、工事日程が相当遅れたことが、全体の予定を大幅に狂わせている原因になってしまいました。そのため、冬期に入り耐火レンガに使用するモルタルを凍結させないため、通常の倍近い時間が作業に費やされているという現状があります。</p>
<p><b>8. 今後の展開</b></p>	<p>2月半ばには窯を完成させ、多くの人に利用して頂くための周知活動を行うとともに、村の広報に活動情報を掲載してもらい、村内の協力者および、陶芸教室への参加者を募集して行きます。</p> <p>また、こうした活動をより理解して頂くための環境教育プログラムとして植林や間伐作業といった活動を企画しています。</p>
<p><b>9. 補助制度に対する意見（感想）</b></p>	<p>資金不足の中、多額の費用がかかる活動は中々困難なことなので、こうした補助制度があることで、活動を実現することができ、非常に有効な補助制度だと思います。また、地域住民の方も関心を持ち、しばしば、築窯の現場に訪れ、この活動に対し、県の補助で事業をしていることを話すことで、さらに理解して頂いています。</p>

## ★ 団 体 紹 介 ★

私どもの団体は、道志村の自然資源を活用し、広く県内外の人々に対して、自然資源の有効活用や自然環境保護、自然を通じた文化芸術活動を提供することを目的とする団体です。そのような活動を通して、道志村の認知度を高めると共に、他地域との交流を行い、限界集落における「地域づくり」のきっかけを提案したいと考えております。

特に今後は、自然と芸術を結びつける活動で「地域づくり」を行いたいと考えておりますので、アイデアや実行部隊として、協力して頂ける方は是非ご連絡をお願いいたします。

NPO法人ゼロファクトリー

E-mail [zerofactory@water.sannet.ne.jp](mailto:zerofactory@water.sannet.ne.jp)

## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑥

団体名	特定非営利活動法人スペースふう
代表者名	理事長 永井 寛子
所在地	南巨摩郡増穂町天神中条 177

1. 事業名	小瀬エコスタジアムプロジェクト 6月エコイベント
2. 実施期間	平成20年6月29日～平成20年12月
3. 交付決定額	1,000,000円（事業費2,000,000円）
4. 協働のパートナー	山梨県森林環境部環境創造課
5. 経緯	<p>山梨県で唯一のプロサッカーチームVF甲府は、子供から大人まで幅広いサポーターに支えられ、小瀬スポーツ公園でのホームゲームでは、1万人を超える多くのサポーターが来場している。しかし、多くのイベントと同様に大量のゴミが排出され問題となっていた。</p> <p>この問題解決のために、飲食については洗って何度も使用できるリユース食器を導入するとともに、ゴミの分別も呼びかけていった。しかし、サポーター自体の環境意識はまだ低く、帰り際のポイ捨てなどもあるのが現状である。また、山梨県との協働が図られていない部分で、「なぜ山梨県は連携しないのか？」との声が多く寄せられていた。</p>
6. 事業内容	<p>（株）VF山梨スポーツクラブと連携し、「みんなに見せたい！ずっと使いたい！カッコいい！レジ袋よりぜったいいい！」マイバッグ（エコマーク付き）を開発し、6月29日のホームゲームにおいて来場者に配布した。</p> <p>また、県民よりエコ活動に協力するエコボランティアを募集し、試合会場での出るゴミの分別回収を行った。分別したペットボトルのキャップは、世界の子どものためのワクチン寄附として、エコキャップ運動団体へ送付した。</p> <p>協働相手である山梨県環境創造課では、6月29日のエコイベントについての情報発信や、ノーレジ袋推進事業との連携を行った。</p> <p>なお、エコイベントにおいて、来場者の年齢層、来場の動機、エコバッグ利用状況、ゴミ分別への取り組みについてヒアリング調査を行い、今後の環境活動のデータとして広く公表する予定である。</p>



<p><b>7. 事業成果</b></p>	<p>山梨県内で6月30日から実施されたスーパーでのレジ袋有料化と連動した結果、エコイベントにおけるエコバッグ配布と活動PRは、パブリシティやサッカーの試合広告も活用したことが功を奏し、効果をあげることができた。</p> <p>29日の午前中のスーパー店頭PR活動では、「今日サッカー会場でも配布するんですね。」と声をかけられるなど認知度が高く、買い物の帰りは早速エコバッグを使って、商品を持ち帰る姿も数多く見られた。</p> <p>試合会場への来場者は、雨天のため7,267名と若干少なかったが、来場者からは「エコバッグはどこで配布していますか？」との問合せが殺到し、県外よりの来場者からは、「山梨県は進んでいますね。うちの県（神奈川県）でもすればいいのに。」との声が数多く寄せられた。</p> <p>当日は、グッズ販売等のレジ袋をすべて廃止したため、試合後、回収したごみにもレジ袋はほとんどなかったことから、エコイベントとして成果をあげることができた。</p>
<p><b>8. 課題</b></p>	<p>配布したエコバッグをさらに活用してもらうために、有料化する販売店をさらに増やすとともに、エコバッグ持参での購買にインセンティブを与え、使用率が向上する取り組みをしていくことが大切だと感じた。</p>
<p><b>9. 今後の展開</b></p>	<p>小瀬でのゴミの分別、リユース食器の導入、エコバッグ使用の呼びかけ等をさらに進めていきます。また、環境活動を6月のみではなく、通年通して県民に広く広報する取り組みを県と連携した形で実施できるように検討していきます。</p>
<p><b>10. 補助制度に対する意見（感想）</b></p>	<p>県との連携という視点での補助制度は、非常に良いことだと思います。県内の活動団体としては、山梨県との連携という名前がついているだけで非常に価値のある活動へ展開することができます。今回私たちは事前に連携について独自に話しておきましたが、そうしたつながりのない団体等に対して事前に対応していただければよいと思います。</p>

## ★ 団 体 紹 介 ★

2002年9月19日にNPO法人格を取得。増穂町の主婦10名が、環境・福祉・教育・文化の活動を通じて地域社会のコミュニケーションを図り、地域活性化の一翼を担うことを目的として立ち上げました。その後、「誰もが参加できるエコロジカルな活動」としてイベント会場へのリユース食器レンタル事業を開始し、2003年経済産業省環境コミュニティービジネス事業に採択され、同年11月より小瀬スポーツ公園で実施されるサッカーJ2V F甲府の試合会場にリユースカップを導入しました。



山梨県以外でのリユース食器レンタル事業拠点が、東京、長野、神奈川、鳥取、福岡にて立ち上がり、リユース食器「ふうネット」を展開しています。2008年、年間リユース食器による使い捨て食器の減量数は、80万個を上回る予定です。



## 地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑦

団体名	NPO みのぶ観光センター
代表者名	加藤 基道
所在地	南巨摩郡身延町切石 192-2

1. 事業名	森林文化の森「本栖の森」を活用した人と森林との交流の場づくり
2. 実施期間	平成20年7月1日から平成20年11月30日
3. 交付決定額	610,000円（事業費 1,221,000円）
4. 協働のパートナー	山梨県森林環境部県有林課
5. 経緯	本栖湖周辺は、ブナやミズナラ等の原生的な森林が存在し、富士五湖の中で最も自然環境が残されている地域である。しかし、現状ではPR不足もあって、観光資源として活かし切れていないことから、県の整備した森林文化の森「本栖の森」で自然体験活動を行い、森林環境教育を推進することで地域の活性化を図る。
6. 事業内容	<p>① ネイチャーゲームでの森林環境教育          目的：本栖湖畔の自然環境の中で、自然とのふれあい体験を通して、自然を学び、楽しみ、自然環境の保全への関心を深め、それを行動に結びつけていく事を目的とする。          内容：1泊2日 3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ネイチャーゲーム+バードウォッチ・星座鑑賞（8・9月）          （社）全国旅行業協会と共同開催</li> <li>●日帰りネイチャーゲーム4回          （8月）として実施。</li> </ul>  <p>② 竜ヶ岳でのエコツアーでの自然体験活動          目的：自然豊かな良好な環境とふれあうことによって、心の潤いや安らぎを感じ取れる事ができ、自然を大切に思う心を育てることを目的とする。          内容：1泊2日 1回 着地型旅行会社と共同開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●トレッキング+紅葉茸狩り（11月）</li> </ul>  <p>③ 県の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業実施するに必要な許認可や環境整備についての適切な助言や指導</li> <li>●県有林課から、森林の特性や歴史的背景などの専門的な知識や情報の提供</li> </ul>

<p><b>7. 事業成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県有林内で事業を実施する上で必要な許認可や環境整備などについて、県と協働することにより、適切な助言や指導を得られたことから、より効果的に事業を実施できた。</li> <li>・ 官、民のそれぞれの意見や提案を取り入れることにより、広く深い事業の推進につながった。</li> <li>・ 森林文化の森「本栖の森」は県有林であり、森林の特性や歴史的背景など地域の特徴について、県から専門的な知識の提供を受けたことにより、質の高い自然環境教育が実施できた。</li> <li>・ 「本栖の森」のトレッキング下見で、倒木があり、その除去をお願いしたところ、直ぐに整備していただき、自然体験活動事業が予定通り実施できた。</li> </ul>
<p><b>8. 課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本栖の森」が国立公園であるため、事業実施するにあたり、案内板、標識などの工作物の設置が難しく、参加者に不便をかけた。</li> <li>・ 夏場の本栖湖は、ウインドサーファーが多く、自然体験活動会場周辺の道路へ駐車する車が多く通行に支障があった。</li> <li>・ 今回のツアー、イベントへの参加者募集が、とても難しかった。チラシ、ラジオ、スポーツ店などで呼びかけをしたが、参加者の多くは、友人、知人からの口コミであった。来年度はそれらを踏まえ、集客していきたい。</li> </ul>
<p><b>9. 今後の展開</b></p>	<p>自然体験活動という呼びかけは、固苦しく感ずるため、来年度は小学生の参加を呼びかけるのに、「本栖の森でキャンプ」といった呼びかけをしていきたい。また、事業の中に巣箱制作設置・植樹など、将来的に訪れたいくなるような事業を取り入れたい。</p>
<p><b>10. 補助制度に対する意見（感想）</b></p>	<p>自己資金が不足しているので、事業実施するのに大変有難い制度だと感じております。</p> <p>また、県有林課と協働することにより森林関係のより深く広い、質の高い自然環境知識を学ぶ事ができる機会になりました。</p>

★ 団体紹介 ★



**NPO みのぶ観光センター**

**サポーター会員募集中！**

URL <http://fujikawa.or.jp/~center/>



NPO みのぶ観光センターでは、全国の人に身延町のすばらしさを知っていただき、また PR していただく「友の会(サポーター)会員」を募集しております。町内外・県内外のご友人、お知り合いの方をご紹介ください。そして、身延町のすばらしい自然や、歴史ある史跡・特産品観光施設などを一緒に学び、活動して、身延町が光り輝く元気な町になりますよう、応援をよろしくお願いいたします。

NPOみのぶ観光センター 山梨県南巨摩郡身延町切石192-2

TEL0556-42-2005 FAX 0556-42-2270